PATEK PHILIPPE
GENEVE

パテック フィリップ ジュネーブ
展示会《希少なハンドクラフト 2024》
2024年4月

パテック フィリップ、ジュネーブのパテック フィリップ・サロンにおいてこれまでで最大となる《希少なハンドクラフト》コレクションを発表

2024年4月13日から27日まで、一般の人々や愛好家は、ローヌ通りの歴史的本社において、卓越した技術と無限の創造性を兼ね備えた希少なハンドクラフト作品82点からなる新しいパテック フィリップ《希少なハンドクラフト 2024》コレクションを発見する機会を得る。手彫金、七宝、ギヨシェ装飾、木象嵌の職人によるライブ実演がイベントをさらに盛り上げる。

偉大なジュネーブの時計製作伝統の継承者および保護者として、パテック フィリップは1839年の創業以来、ほぼ5世紀にわたる時計の装飾に関連するすべての希少なハンドクラフトを永続させることに注力してきた。1932年にその使命を引き継いだスターン家も4世代にわたりこれらの希少な技術を保存することに専念してきた。

マニュファクチュール パテック フィリップは、《革新の伝統》に忠実に、ますます多様なインスピレーションの源泉を活用しつつ、常に可能性の限界を究めることによってこれらすべての卓越した技術を進歩させることも目指している。毎年発表されるユニークピースとリミテッド・エディションの新しいコレクションが、この技巧と発明の融合を体現している。

キーワードとしての多様性

《希少なハンドクラフト 2024》コレクション（ドーム・テーブルクロックと小型ドーム・テーブルクロック27点、テーブルクロック3点、懐中時計9点、腕時計43点の合計82点）は、何世紀にもわたる技術（クロワゾネ本七宝、七宝細密画、グリザイユ七宝、フランケ七宝、パイヨネ七宝、シャンルヴェ七宝、手彫金、手仕上げギヨシェ装飾、ジェム・セッティング）、および細密木象嵌、ファイヤンス焼のロンウィー七宝などの時計製作において革新的な技術を網羅する膨大なノウハウに再びスポットライトを当てる。そして忘れてはならないのは、例えばクロワゾネ七宝と手仕上げギヨシェ装飾、手彫金と木象嵌などを組み合わせた、いわゆる《混合技法》によって装飾された、ますます多くの作品の存在である。

テーマに関しても、《希少なハンドクラフト 2024》コレクションはきわめて豊かな創造性を誇る。伝統的な芸術形式から現代のレジャー活動に至る、時代にまたがるモチーフと、あらゆる大陸の文化と風景からインスピレーションを得た空間を超えた主題を取り上げている。

ますます独創的で驚異的な装飾が施されたこれら82点の作品は、3つのエリアに分けられ、特別に考案されたエレガントなセッティングの中で展示され、見事な効果を発揮する。

Chemin du Pont-du-Centenaire 141 – CH - 1228 Plan-les-Ouates
Mail address: P.O. Box 2654 – CH - 1211 Geneva 2
Tel. + 41 22 884 20 20 – Fax + 41 22 884 25 47 – www.patek.com

黄道12宮のすべての星座

中央エリアでは、12点のカラトラバ腕時計の卓越したグループが見学者を迎える。文字盤は白リモージュによるグリザイユ七宝、クロワゾネ本七宝、およびパイヨネ七宝で装飾されており、各々が黄道12宮の星座を表している。これらの装飾は、古代の版画に材を得ているが、魅力的な奥行き感が驚くほどモダンなスタイルで解釈されており、獅子座（5077/100G-066）、射手座（5077/100G-070）、蠍座（5077/100G-069）、魚座（5077/100G-073）など12点の腕時計は、各々2本のリミテッド・エディションである。

自然美へのトリビュート

レマン湖に面し、港の美しい景色を望むサロンには、動植物、風景など、自然の美しさを謳い上げる作品が展示され、これらにはいずれもきわめて洗練された装飾が施されている。

2024年コレクションでは鳥が栄誉ある地位を占めている。とりわけ優雅な白鷺に焦点が当てられており、さまざまな技法を用い、例えばきわめて繊細な木象嵌で装飾された懐中時計995/143G-001 「白鷺の肖像」など4点の作品で表現されている。

大型のショーケースは、見学者を日本、オランダ、ベルサイユ、アンダルシア、イギリスを含む世界で最も美しい庭園へのツアーに誘う。ゴールデン・エリプス腕時計5738/50R-001 「日本庭園」の文字盤は、クロワゾネ本七宝の装飾に先立ってソレイユ・モチーフの手仕上げギヨシェ装飾が施され、その上から半透明七宝の空が見事な光の戯れを生み出すようにデザインされている。ゴールデン・エリプス腕時計5738/50G-035 「オランダの春」では、同じ七宝技術を用いて水のきらめきを表現している。

旅は温泉町や水辺の風景を次々に通り抜けて続く。中国浙江省の平底帆船、ジュネーブの港を描いた古いセピア色の絵葉書（七宝細密画で表現）、画家カナレットによるヴェネツィアのリアルト橋の眺め（七宝細密画と手彫金で表現）など、インスピレーション源は多様である。また偉大なスイスの画家フェルディナンド・ホドラーからインスピレーションを得たトゥーン湖のある風景は、ワールドタイム・ミニット・リピーター腕時計を飾る。懐中時計992/184G-001 「冬のレマン湖」では、手仕上げギヨシェ装飾により背景の輝く空と湖の波のパターンを描き、その上から乳白色の釉薬を施し、柔らかな冬の光の反射を引き出している。その後、11色の釉薬を微細で巧みなタッチで用い、七宝細密画による絵画を描いている。

植物の世界は、魅惑的なジャングル、アールデコからインスピレーションを得た花のモチーフ、そしてドーム・テーブルクロックを飾るファイヤンス焼のロンウィー七宝による繊細なサンザシの花に至るまで、その驚くべき形と色のレパートリーを輝く装飾の中に展開している。

懐中時計995/144J-001 「熊と鮭」のケースバックは、色、質感、木目の異なる38種類の木から315枚の小さな突板と75個のさらに小さなインレイを切り出し、組み立てられた木象嵌による、驚くほどリアルなシーンで装飾されている。

パテック フィリップはまた、鯉と睡蓮で飾られた3点のユニークピースにより、木象嵌により装飾された最初のテーブルクロックを発表する。

人間の努力を讃える

ローヌ通りに面したサロンは、人間の努力（芸術、伝統、スポーツ）の伝説的な実例を称える。ここでは完全な自由の下に多様な技術が組み合わされている。

七宝細密画によるサーファーの肖像を描いたカラトラバ腕時計5089G-130 「波乗り」など一連のタイムピースは、サーフィンと、その発祥の国であるハワイの魅惑的な風景、ダンサー、および熱気に溢れる伝統的な装飾モチーフを賞賛している。

クロワゾネ本七宝による蒸気機関車とニューヨークの超高層ビルを描いたドーム・テーブルクロック20155M-001 「アメリカン・トレインズ」は、アメリカン・ドリームが明るく輝いている。窓は半透明釉薬の下に埋め込まれた銀のパイヨン（微細な小片）で照らされている。4点のカラトラバ腕時計の文字盤は、アメリカ西海岸を想起させるセッティングで1960年代の最も美しいアメリカン・カーを描いている。

全長72.10 cmのゴールド・ワイヤーと半透明、準不透明、不透明の40色の釉薬を必要としたクロワゾネ本七宝のケースバック、手彫金のモチーフ、木象嵌の文字盤など、懐中時計995/142J-001 「ビリヤード・ボール」の珍しいモダンな装飾は、ビリヤードへの情熱からインスピレーションを得ている。イエローゴールドのきわめて独創的なスタンドは、白瑪瑙の手球とゴールドと縞黒檀のキューで飾られている。2点のカラトラバ腕時計も同じテーマを取り上げている。

世界できわめて数少ない丸い形をした切手のひとつからインスピレーションを得たカラトラバ腕時計5089G-119 「サザン・ブラウン・キーウィ」は、希少なハンドクラフトの中で最も古く希少なもののひとつである手彫金で装飾されている。ここではホワイトゴールドの文字盤に、背景の葉と鳥を線彫りの技法で彫刻している。絵画には、その上からグリーンの半透明釉薬が施されている。

クロワゾネ七宝に七宝細密画を加えたドーム・テーブルクロック20157M-001 「ミューズ」は、様式化された植物のフォルムと女性的な曲線の戯れで名高い、チェコの画家アルフォンス・ミュシャ（1860 ～ 1939年）の作品の魔法のすべてを伝えている。絵画へのオマージュは、グスタフ・クリムトの「生命の樹」(小型ドーム・テーブルクロック10037モデル)、クロード・モネの「白い睡蓮の池」(ドーム・クロック20158モデル）へと続く。

デザイナーの想像力と職人の妙技を刺激するその他のインスピレーション源には、オセアニアのティキ像、ブルゴーニュ様式の屋根、1924年のパリ・オリンピック競技、マンダラのデザイン、トワル・ド・ジュイとして知られる著名なフランスの布地、およびラ・フォンテーヌの寓話がある。

時計製作を描いた美術もこのテーマに貢献しており、クロワゾネ七宝の3点の小型ドーム・テーブルクロックは、様式化された時計部品の最も珍しい幾何学的装飾で飾られている。

職人によるライブ実演

パテック フィリップ・サロンの展示会では、一般の人々も一流の職人によるさまざまな技術（手彫金、七宝、

木象嵌、手仕上げギヨシェ装飾）の実践を見学することができる。また希少なハンドクラフトのいくつかに関連するビデオやツールが、これらの洗練された熟練技術を解説している。

入場無料で一般公開される展示会

これら82点におよぶ創作品を展示する《希少なハンドクラフト2024》は、日曜日を除く2024年4月13日から27日までの午前11時から午後6時（最終入場は午後5時）まで、ジュネーブ・ローヌ通り41番地のパテック フィリップ・サロン（Salons Patek Philippe, rue du Rhône 41, 1204 Genève）で一般公開される。見学者は、事前に当社ウェブサイト patek.comでオンライン登録を行うことが推奨されている。

展示会《希少なハンドクラフト2024》は、その後6月7日から16日までロンドン・ボンド・ストリートのパテック フィリップ・サロンでも開催される。同サロンの改装されたばかりの象徴的な空間における初の試みとなる。

見学者にとってこれら2つのイベントは、世界中のプライベート・コレクションに向けて旅立つ前にこれらの卓越した作品のすべてを鑑賞できるユニークな機会となる。

《本資料に関するお問い合わせ先》
PP Japan 株式会社
パテック フィリップ ジャパン
広告・広報部 部長
大塚 和泉
電　話：03 - 5209 - 8018（直通）
ＦＡＸ：03 - 3256 - 7558
izumi@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》
パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター
電　話：03 - 3255 - 8109

パテック フィリップ ホームページ：https://www.patek.com

《希少なハンドクラフト 2024》コレクションに用いられた技術

手彫金
手彫金はさまざまな技法（線彫り、浅浮彫りなど）があり、時計製作において最も古い歴史を持つ装飾芸術である。時計のケースバック、文字盤、指針、ベゼル、環を美しく装飾する。

クロワゾネ本七宝
この技法は、時計製作において長い歴史を持ち、鮮やかで不変な色彩の装飾を創り出す。職人は先ず細いゴールド・ワイヤーを曲げてモチーフの輪郭をつくり、できた《クロワゾン》(囲い）の中に半透明、不透明、準不透明、乳白色の釉薬を施していくのである。

七宝細密画
17 世紀以来、七宝細密画はジュネーブの最も重要な伝統技術のひとつである。粉末状の釉薬とラベンダー油を混ぜたものを用い、極細の筆により白七宝の地の上に微小な絵画を描くことができる。

パイヨネ七宝
この伝統的な技法は、半透明の七宝の層に埋め込まれた金箔や銀箔から切り出された微細なモチーフ（パイヨン）が半透明の七宝を通して見え、装飾を輝かせる。

手仕上げギヨシェ装飾とフランケ七宝
手仕上げギヨシェ装飾は、伝統的な手動の機械を使用し、繊細な幾何学模様を金属表面に彫刻する技術であり、モチーフが立体感のある美しい光の戯れを生み出す。これらの輝くパターンの上に半透明な七宝を施す技術はフランケ七宝と呼ばれる。

シャンルヴェ七宝
この先祖代々の技法は、金属板の素材にくぼみを彫刻し、これを釉薬で満たし、数回にわたり炉で焼成するものである。

白リモージュによるグリザイユ七宝
フランス発祥のこの技法は、暗色の七宝の下地の上に白リモージュ（blanc de Limoges）と呼ばれる白い油性の七宝を微細な筆と針で形成し、巧みなモノクロームのモチーフを創り出すことができる。

ファイヤンス焼のロンウィー七宝
フランス北東部のロンウィーの町を著名にしたこの技法は、特徴的な黒い輪郭線（cerne）によりモチーフを描き、次いで輪郭により囲まれた各々の部分を異なった釉薬により着色し、わずかな起伏をつくり出す。

木象嵌
このきわめて高度な技法は、パテック フィリップが腕時計の文字盤と懐中時計のケース裏面を装飾するために採用してきた。さまざまな色や木目の多種類の木から切り出された数百もの微細な木片をモザイクのように組み合わせ、微小な画像を創り出す。

ジェム・セッティング
ダイヤモンドやブルートパーズなどの貴石や半貴石のジェム・セッティングは、カラトラバ腕時計のベゼルに息をのむような燦めきをもたらす。また完全な手づくりの18金ゴールド製の懐中時計スタンドにも、細心の配慮を注いで選ばれた多彩なカラーの貴石がセッティングされている。